

平成26年度 県立日立第一高等学校全日制普通科（単位制） 自己評価表

【別紙様式2】

<p>目指す学校像</p>	<p>本校は、創立以来80有余年が経過し、その間、豊かな伝統と歴史をもつ進学校として着実に発展を遂げてきた。さらなる飛躍を期し、進学重視型単位制高等学校として、また「併設型中高一貫教育校」としての特色を生かしながら、21世紀の世界を担いうる有為な人材の育成を目指した学校づくりを行う。 本校の全ての職員は、教育公務員としての自覚と使命感を堅持しながら、教育目標の達成に邁進し、併せて信頼と活力を生む「地域に開かれた学校」づくりを推進する。 また、本校の「自主・自律」の校風を大切にしながら、「文武両道」の精神のもと、特別活動・学習活動の充実を期するとともに、生徒一人ひとりの自己実現を図る。本校のめざす生徒像は次のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学ぶ喜びを知る生徒 2 自立し、生き抜く力を持つ生徒 3 広く社会で活躍できる生徒
---------------	--

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>昨年度は、「進学重視型単位制」を導入して9年目となり、学習指導と特別活動の両立に努め、前年度同様に生徒の進路希望達成に大きな成果を上げることができた。特に国立大学現役合格者数が9年連続して100名を超え、難関大学への合格者数も増加傾向にあり、質的な向上も見られた。 今年度は、進学重視型単位制高校としての特色生かして、引き続き「文武両道」の精神のもと、学習指導と特別活動の両立に努めると共に、キャリア教育を充実させ、より一層生徒一人ひとりの自己実現を図る。また、学級減に対応した指導体制を確立し、併設型中高一貫教育校への円滑な移行に努める。</p>	1	<p>単位制高校として、授業を充実させ、生徒の基礎学力を増進し、「個性」を伸ばす教育を推進するとともに、「併設型中高一貫教育校」への円滑な移行に努める。</p> <p>進学重視型単位制の下、少人数授業(数学・体育・英語)の実施、「学習の手引」の活用及び週末の過ごし方の研究を通して、教科指導の充実を図るとともに、「併設型中高一貫教育校」への円滑な移行を推進する。</p>	A
	2	<p>進学指導の充実を図る。</p> <p>キャリア教育の充実及び計画的な進路指導に努めると同時に、課外指導等を通じて学力増進を図り、生徒の進路希望の実現を果たし、国公立大や難関私立大の合格者を増やす。</p>	A
	3	<p>特別活動への積極的な参加を促し、自主性を伸ばし、更なる文武両道の充実を図る。</p> <p>HR活動・委員会活動の活性化を図るとともに、充実した学校生活を送る。また、学習活動と特別活動の両立を図り、部・同好会活動を推進して県外大会への出場を目指す。</p>	A
	4	<p>教育相談の充実及び「心の教育」の充実を図る。</p> <p>教育相談体制を確立し、体験学習等とおして「心の教育」を推進する。</p>	B
	5	<p>高大連携の推進を図る。</p> <p>茨城キリスト教大学との高大連携を継続して推進するとともに、茨城大学との連携の推進及び内容の充実を図る。</p>	A
	6	<p>国際理解教育の推進を図る。</p> <p>SELHi事業の成果を一層充実発展させるとともに、海外研修等に積極的に参加し、科学や環境問題にも積極的に取り組む。</p>	A
	7	<p>学校健康教育及び教育環境等の充実を図る。</p> <p>学校保健委員会を一層充実・発展させ、学校保健の推進や校舎内外の安全管理・安全指導の徹底を図る。</p>	A
	8	<p>教育情報の管理と情報の共有化を図る。</p> <p>学校支援システムを積極的に活用し、出席管理や成績処理を円滑に行い、校務処理の軽減化とともに管理の一元化を図る。教育情報ネットワークやインターネットを活用し、本校の情報を積極的に発信する。</p>	A
	9	<p>環境教育の推進を図る。</p> <p>身近な環境の検査や測定を通して環境と人間のかかわりを学び、よりよい環境を創造していこうとする実践的な態度の育成を図る。</p>	B
	10	<p>SSH事業の推進を図る。</p> <p>カリキュラムの研究・開発を通して、「科学する心」を育成すると共に、国際的な視野を持つ人間の育成を図る。</p>	A
	11	<p>自律的で責任ある生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。</p> <p>公共マナーや社会のルールに則った自律的な生活習慣を育成し、自発的に行動できる生徒を育てる。</p>	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価		後期評価		年間評価		次年度（学期）への主な課題		
			1	A	A	A	A	A			
教務部	1	1) 学校行事の内容を検討し、適正な時期に計画実施する。効率的な係分担や役割分担を計画する。	1	A	A	A	A	A	<p>今年度は、平成27年度から募集するサイエンス科の設置準備や、附属中学校から高校への入学生を考慮して、学校行事の検討を行った。次年度は、円滑に学校運営を進めるため、より一層の年次・各部との連携が必要である。 次年度も、生徒の自己実現のため、授業時間の確保および学校行事の円滑な運営に努めたい。</p>		
		2) 各学校行事について、関係機関との連携を密にし円滑に運営できるよう努める。また、反省事項をまとめ、次年度へ向けて内容を改善していく体制を作る。	1,3	A						A	A
	2	1) 年間とおして、授業時数に偏りのないように調整する。実施の的確な把握に努める。	1,2	A						A	A
		2) 各教科との連携を密にし、時間割編成の効率化に努める。生徒の多様な選択希望に柔軟に対応する。	1	A						A	A
	3	1) 校内定期考査および実力考査の適正な実施に努め、公正な評価を行う。	1,8	A						A	A
		2) 生徒の出欠については、その出席状況を正確に把握し、各年次・生徒指導部・教育相談部との連携を図る。	4,11	B						B	B
		3) 生徒の多様な希望に答えるため、同時展開の授業をはじめ、授業全体について運営の円滑化や弾力化に努める。	1	A						A	A
		4) 奨学金に関する情報を、正確確実に生徒へ提供できるよう努める。	8	A						A	A
	4	1) 新学習指導要領にもとづく教育課程へ、円滑に移行するよう努める。	1,2	A						B	A
		2) 様々な側面において、附属中学校との連携を進める。	1	A						A	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題					
5	進学重視型単位制高等学校として、魅力ある創造的な授業を目指し、授業方法および評価の改善や研究に努める。	1) 教科や科目の目標と評価の観点を設定し、学習シラバスに基づいた検証を行う。	2	B	B	B	・来年度高校で内進生を初めて迎え、この新たな状況に対応した進路指導の研究に努める。 ・難関大対策について教員対象セミナーへの参加補助等新たな取り組みを決定したが、さらにその内容の充実を図る。 ・3年生での伸びをより確実なものにするために必要な基礎力を1・2年次で身に付けさせるため、家庭学習時間の増加に努める。				
		2) 進路指導部と連携し、3年間をおとした学習計画を充実させる。	2	B				B			
		3) 少数教育の推進に努め、授業内容について点検や検証を進める。	1	A				A			
		4) 教員間で公開授業の意義を再確認し、それぞれが授業内容の向上に努めるような体制をつくる。	1	B				B			
6	特色ある取り組みとして、現在行っている高大連携や国際交流を積極的に推進する。	1) それぞれの事業について、実施方法や内容について検証するとともに生徒への広報に努める。	5, 6, 10	A	A	A					
進路指導部	1	1) 進路に関する資料の収集・整理と的確な分析により、情報の有効活用を努める。	1	B	B	A		A			
		2) 『進路資料』等を通して、系統的な進路指導に努める。	1	A					A		
	2	3年間を見通した計画的、系統的な進路指導に努める。	1) 進路相談を充実させ、インターネットの利用や「進路通信」の発行を通して情報の提供に努める。	2					B	B	A
			2) LHR・進学ガイダンス・HRセミナー・大学見学会等を通して、進路意識の高揚を図る。	2					A	A	
			3) 国公立大学・難関私立大学への合格率がアップするように、年次及び教科との密接な連携を図りながら、充実した課外授業やサテライト講座の活用を通して、進路実現に必要な学力を養成する。	2					A	A	
			4) 大学入試制度に関する情報を積極的に収集し、本校の実態に即した適切な対策を講じる。	2			B		B		
	3	各年次及び各教科と密接な連携を図り、効率の良い進路指導に努める。	1) 外部模試は明確な目的のもとで受験させ、結果を速やかに分析・整理して事後指導に活かす。	3			A		A	A	
			2) 小論文や論述問題に関する指導は、各教科と連絡を取り、志望校に応じた指導に努める。	3			B		A	A	
			3) 進路関係の研究会には、第1年次及び第2年次担任も出席し、積極的な情報収集に努める。	3			B		B	B	
	保健厚生部	1	1) 生徒達の日々の健康状態を把握し、適切な健康管理に努める。	7			A		B	A	A
2) 防災機器の点検・管理、並びに生徒達の危機管理意識の高揚に努める。			7, 9	B	A	A					
3) 学習環境の衛生管理、及び美化に努める。			7, 9	B	A	A					
2		学習環境を整え、生徒達が安全で充実した学校生活を送れるように努める。	1) 学校保健委員会と連携し、学校保健活動の推進や校舎内外の安全管理・安全指導の徹底を図る。	7, 9	B	B	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題				
生徒指導部	1 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚に努める。	1) 様々な生活指導を通し、自主自立の意義を理解させ、更なる自律心を養う。	4.11	B	B	A	A	・自主自立の指導をする上で「自主自立する生徒像」の職員の共通理解をどう図るか。今後の統一した指導の確率。 ・ウォークマン、スマホ、SNSの指導のあり方をどうするか。 ・自転車の乗車マナー、車両安全管理を強化する。 ・軽微な校則違反指導方法の検討。		
		2) 講話やLHRなどを利用し、挨拶や礼法的重要性を理解させ、自発的な励行を促す。	4.11	B					A	A
	2 マナーの向上に努める。	1) 「さわやかマナーアップ運動」を推進するとともに、生徒会と連携し、マナーアップの呼びかけを行う。	4.11	B					A	A
		2) LHRや道徳などの授業を通し、モラルの向上やマナーアップに関する討論や活動を行う。	4.11	B					B	A
	3 安全教育の推進と事故防止に努める。	1) 自転車指導・バイク指導等の交通安全指導を定期的に行う。	7.11	B					A	A
		2) 薬物乱用防止等の安全教室を行い、生徒の危機対応能力を高める。	7.11	B					A	A
3) 校内研修会を実施し、教職員の危機管理に対するスキルの向上を図る。		7.11	C	B	B					
渉外部	1 保護者（家庭）、地域との連絡を密にし、相互理解を深め円滑なPTA活動を行う。	1) 新入生父母と教師の会の運営の充実を図る。PTA総会の行事の参加を促進するため、企画を充実させる。	8	B	B	A	A	附属中生のPが、高校のPとして活動する時に、地区の割り振りをどうするか。また、委員、役員の継続はどうするのか。来年度のマラソン大会が中止（笠松での）の場合、体育後援委員の扱いはどうするのか。		
		2) ホームルームセミナー、大学見学等学力振興に関わる行事の企画、運営を充実させ、またマナーアップ運動等生徒指導に関わる企画、運営を充実させる。	2.3	B					A	A
		3) 広報紙発行等広報に関わる企画、運営を充実させ、またマラソン大会の体育後援に関わる企画運営を充実させる。	3	B					A	A
		4) 県北地区当番校として、また県高P連の会長、関東高P連の会長、全国高P連の理事として、職責を全うする。PTA全国大会、関東大会等各種研修に積極的に参加、研修内容を持ち帰り、PTA活動に活かす。	1,11	B					A	A
2 各専門委員会活動の調整を行い、生徒の健全育成の一助とする。	1) 総務委員会・全体委員会の審議の活発化、共通理解を図る。決定事項等を各専門委員会の活動に反映させる。	1	B	B	B					
特活指導部	1 学校生活において、生徒の集団活動が有意深く、望ましいものとなるように支援する。また様々な活動を通じて、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。県内有数の伝統校として全県下・地域の社会に貢献できる人間の育成に努める。	1) 生徒会や各種委員会の活動を活発化させ、生徒全体が望ましい学校像を実現しようとする意識の向上に努める。	3.11	A	A	A	A	・中学と高校の生徒会役員の連携を深め、学校行事が円滑に運営されるようにする。		
		2) 遠足等、HRの諸活動を通して、HRや学校生活における望ましい人間関係を構築させ、あわせて帰属する集団の発展のために必要な、健全な生活態度の育成を目指す。	3.11	A					A	A
		3) クラスマッチや野球応援など、学校行事への主体的かつ積極的な参加を促し、自分が所属する集団への帰属意識を高め、よりよい学校生活を送るための自主的・実践的な態度の育成を図る。	3	A					B	B
		4) 社会性や人間性を高め、地域社会に貢献できる人間の育成を目指し、ボランティア活動を積極的に推進する。	3.11	B					A	A
		5) 部活動への加入を促し、その活動を教的・質的に活性化し、あわせて生徒個人の自己実現を支援する。	3.10	A					A	A
学校図書部	1 図書館利用の活性化と読書活動の充実。	1) 活発で創造的な図書委員会活動ができるように支援する。	3	A	A	A	A	・OA化の一層の推進。 ・図書館からの情報発信の推進。 ・年次・教科等との連携の強化。		
		2) 部・教科等と指導の連携を図り、豊かな読書活動を目指す。	1.3	B					B	B
		3) 図書館内の環境整備とOA化を推進する。	7	A					A	A
2 校内放送の充実と放送技術の向上	1) 活発で創造的な放送委員会活動ができるように支援する。	3	A	A	A					
情報部	1 学校管理支援システムの安定した運用の実施	1) 学校管理支援システムにおいて、附属中学校や他の校務分掌等との連携を高め、より効率的かつ広範な利用の促進を図る。	8	B	B	B	B	・校内ネットワークのバックアップ体制の向上 ・ホームページの大幅な変更に向けた情報収集の実施 ・支援システムを使用する際のサポートの充実		
	2 情報発信の充実	1) ホームページ、携帯用掲示板等を用いた、校内の情報発信を積極的・定期的に行う。	8	A					A	A
	3 校内ネットワーク快適利用のための整備	1) 校内ネットワークサーバセキュリティの維持・向上に努める。また、多方面からの意見を集約し、校内ネットワークの利用しやすさ向上について研究を進めていく。	8	B					B	B
教育相談部	1 生徒の健全な人間形成と自己実現の促進に努める。	1) 校内研修会・Hyper-Quの実施等を通して教師や生徒への支援を行う。	4	B	B	B	B	・生徒対象の研修会の工夫及び不登校生徒への支援体制の在り方についての研究		
		2) スクールカウンセラーや担任・年次と連携しながら、生徒及び保護者への援助活動を行う。	4	B					B	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題				
サイエンス部	1 「科学する心」を育成する。	1) 「最先端科学体験」事業を行い、科学に対する興味・関心を高める。 10	B	B	A	A	・サイエンスリテラシー育成教育の成果を明確にするため、評価方法の検討をする。 ・来年度より、サイエンス科にSSH事業を重ねていくための教育課程の検討をしていく。			
		2) 「日立理科クラブ」など地元NPO団体や企業とのつながりを活かし、「科学する心」を育成する。 10	A					A		
		3) 「科学研究発表会」等への参加を通して、「科学する心」を深めるとともに、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を向上させる。 10	A					A		
	2 国際的な視野を持つ人間の育成をする。	1) 「科学英語」、「海外サイエンスセミナー」、「白聖セミナーⅠ」などにおいて、各教科・分掌と連携を図り、内容を充実させ、国際的な視野やコミュニケーション能力の向上を図る。 5, 6, 10	B					A	A	
		1) 中高一貫校としてのサイエンスリテラシー育成教育の研究に努める。 10	B					B	B	
		2) 高大連携・接続事業を通して、科学に対する興味関心を高めさせ、サイエンスリテラシーの育成に努める。 5, 10	B					A	A	
	3 サイエンスリテラシーの育成に努める。	3) 「白聖ネイチャースクール」「白聖ジュニアセミナー」を通し、中高連携するとともに、コミュニケーション能力を向上させる。 10	B					B	A	A
		4 SSH活動の活性化を図る。	1) 「SSH中間報告会」「SSH科学研究成果発表会」を実施することにより、校内外に本校の活動を広めるとともに、SSH活動の活性化を図る。 10					C	A	A
			2) SSHの事業を通し、科学系部活動の活性化を図る。 10					A	A	A
	3) SSH通信やHPなどを活用し、広報活動に取り組む。 10		B					A	A	
	4) 教育課程の研究に努める。 10		B					B	B	
	第1年次	1 社会を構成する一員としての自覚と規範意識を身に付けさせ、自己指導能力を育成する。	1) 自主・自律の校風の下、規範意識を高め、生徒自らが良好な学校環境を作れるよう指導・助言を行う。 4, 7, 11					B	B	A
2) HR活動や道徳をとおし、マナーや倫理観の向上など、心の教育を充実させ、自己指導能力を高める。 4, 11			B	A	A					
2 進路指導を充実させ、進路に対する意識を高め、より高い目標を持つ姿勢を養うとともに、世界的な視野を持ち、国際社会に貢献できる人材を育成する。		1) 進路指導部との連携強化・個別面談の実施・情報の周知・共有化など、日頃の進路指導を充実させ、進路に対する意識を強める。 2, 5	B	B	B					
		2) HRセミナーや大学見学会をとおして、職業観の育成及び上級学校・学問の理解を図り、高い進路目標を持たせると共にその実現に向けた幅広い知識と教養を身に付けさせる。 2, 5	C	B	B					
		3) SSH事業や国際交流事業、道徳の授業をとおし世界的な視野を広げ、国際社会で活躍できる表現力・英語力・技能を持つ人材の育成に努める。 5, 6, 10	B	A	A					
3 授業を大切に学習活動を確立させ、自主的に取り組む態度と進路実現に向けた確かな学力を育成する。		1) 授業は予習と復習を含め成り立っていることを理解させ、家庭学習の習慣を身につけさせることにより学力の向上を図る。 1	B	B	B					
		2) 基礎学力の定着と学習活動のステップアップを図るため、週末課題・課外・校外模試等への積極的な取り組みを促す。さらに学習調査などをもとに生徒個々に対しアドバイスを行っていく。 1	A	A	A					
		3) 授業の大切さを強く意識させ、意欲を高められる授業を展開するため、研究・改善を行い教科指導の充実を図る。 1	B	A	A					
4 部活動やホームルーム活動などの特別活動や学校行事への積極的な参加により、愛校心・協調性・社会性を育成する。		1) 部活動や生徒会活動、その他の学校行事等への積極的な参加を促し、協調性や社会性の向上とリーダーシップを育成し、心身共にバランスのとれた人間形成を図る。 3	B	A	B					
		2) 課外の実施時間を早朝に設けるなど、部活動と課外活動を両立できる環境を整える。 3	B	A	A					

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題			
第2年次	1 社会を構成する一員としての自覚と規範意識を身に付けさせ、自己指導能力を育成する。	1) 自主・自律の校風の下、規範意識を高め、生徒自らが良好な学校環境を作れるよう指導・助言を行う。 4. 7. 11 A	B	A	A	A			
		2) HR活動や道徳をとおし、マナーや倫理観の向上など、心の教育を充実させ、自己指導能力を高める。 4. 11 B							
	2 進路指導を充実させ、進路に対する意識を高め、より高い目標を持つ姿勢を養うとともに、世界的な視野を持ち、国際社会に貢献できる人材を育成する。	1) 進路指導部との連携強化・個別面談の実施・情報の周知など、日頃の進路指導を充実させ、進路に対する意識を強める。 2. 5 B					A	A	A
		2) HRセミナーや目標とする大学のオープンキャンパスの参加をとおして、職業観の育成及び上級学校への理解を図る。さらに、高い進路目標を持たせると共にその実現に向けた幅広い知識と教養を身に付けさせる。 2. 5 A							
		3) S S H事業や国際交流事業をとおし世界的な視野を広げ、国際社会で活躍できる表現力・英語力・技能を持つ人材の育成に努める。 5. 6. 10 A							
		4) 新教育課程導入に伴う大学受験科目変更への対策など、進路指導部と連携し、組織的に取り組む。 2. 5 B							
	3 授業を大切に学習活動を確立させ、自主的に取り組む態度と進路実現に向けた確かな学力を育成する。	1) 授業は予習と復習を含め成り立っていることを理解させ、家庭学習の習慣を身につけさせることにより学力の向上を図る。 1 B					B	B	B
		2) 基礎学力の定着と学習活動のステップアップを図るため、週末課題・課外・校外模試等への積極的な取り組みを促す。さらに学習調査などをもとに面談の機会を数多く設け、生徒個々に対しアドバイスを行っていく。 1 B							
		3) 授業の大切さを強く意識させ、意欲を高められる授業を展開するため、研究・改善を行い、教科指導の充実を図る。 1 A							
	4 中堅年次として、部活動やホームルーム活動などの特別活動や学校行事への積極的な参加により、愛校心・協調性・社会性を育成する。	1) 部活動や生徒会活動、その他の学校行事等への積極的な参加を促し、協調性や社会性の向上とリーダーシップを育成し、心身共にバランスのとれた人間形成を図る。 3 A					A	A	A
		2) 課外の実施時間を早朝に設けるなど、部活動や課外活動と両立できる環境を整える。 3 A							
	第3年次	1 高校生活の集大成として、現在そして未来において自らが担うべき役割を自覚させ、自主的・自律的に行動する力をつけさせる。					1) 最高年次としての責任を自覚させ、自らの生活を律し、進んで学校環境の改善に努める姿勢を養う。 4. 7. 11 B	A	A
2) 日々の生活の中で、自己と周囲との関わりを意識させ、他者を尊重し、ともに向上する意欲と態度を養う。 4. 11 A									
3) LHR・個別面談等を通じ、生徒の自己理解の深化を促し、主体的に生きる姿勢を身につけさせる。 4. 11 A									
2 個々の進路目標の実現をめざし、進路指導部との連携のもと、組織的・計画的な進路指導を行う。		1) 授業の重要性を再認識させるとともに、課外・サテライト・校外模試への積極的な参加と、その有効活用を図る。 1. 2 A	A	A	A				
		2) 朝や放課後の自習の励行、自習室の活用促進により、自学・自習の習慣を定着させる。 1. 2 B							
		3) 進路情報や指導法の共有化を図り、生徒の多様な学力・進路希望に対応できる指導体制を構築する。 2. 5. 8 A							
3 特別活動やホームルーム活動への主体的な参加を促し、集団に寄与する精神を育てる。		1) 学習活動と特別活動の両立をめざし、心身の調和のとれた人間形成を図る。 1. 3 B	B	B	B				
		2) 各種の学校行事に主体的かつ積極的に参加し、これを主導する態度を養う。 3 A							
4 自然科学や人文科学など、学問に対する興味関心を育て、国際社会に貢献できる人材の育成に努める。		1) 基礎・基本を重視しつつ、その応用を視野に入れた指導を通して、一人一人の探求心や科学的思考力を高める。 5. 9. 10 A	A	A	A				
		2) 授業やLHRを通じて、広い視野や高いコミュニケーション能力など、国際社会で活躍できる力の養成に努める。 2. 6 B							

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分